

第2回グローバルミニ講演会を実施しました

日時 平成31年2月2日（土）13:30～15:00

講師 渡邊 一孝 氏

株式会社 ExN（映画企画・製作・配給）代表

映画『僕の帰る場所』プロデューサー

演題 「移民社会に向き合って ～映画『僕の帰る場所』福井公開を前に～」

対象 高志高校・高志中学校生徒のうち希望者



【講師プロフィール】

福井市出身。高志高校を卒業後、慶応大学に進学。配給会社や俳優事務所などで多方面から映画作りを学ぶ。プロデュースした映画は今作が2本目。今作は東京国際映画祭 2017 でのアジアの未来部門作品賞など2冠を含め5つの国際的な賞を受賞。30以上の国際映画祭で上映された。

【内容】

誰にも正解を教えてもらえない現代において、私たちは不確実なことに確信的に取り組んでいかねばならない。自分がこれまでに取り組んできたことを通して、見えてきたものがある。自分が何をもって勝負していくかを見いだすために、常に考えていることがある。それは、

- 発想とは？ ● ひらめきとは？ ● 気づきとは？
- 自分のやりたいこととは？
- 自分に向いていることとは？



これらは、自分の内にある無意識が現れてわかることで、誰も教えてくれないし誰も与えてくれない。現れて消えてしまう前に自分で捕まえないといけない。それらが現れてくれるようにするには、圧倒的に無数の情報を浴びる（映画館で映画を見るのがおすすめ）必要がある。

情報を浴びた後で、見えたものや記憶に残っていることを書き出してみるとよい。そして、それらを複数の視点から分析し理由付けすると、自分のやりたいことや自分に向いていることが見えてくる。特に、人に話してみても、新たな視点や尺度を得てさらに分析を重ねることは大切である。（映画を作る際には、様々な人を巻き込んで頼る必要があり、自分がしたいことを企画し、それをやる意義、やるべき理由を伝えるという過程はなくてはならないものである。）

映画『僕の帰る場所』を制作する際、監督とは特にキーワードを共有していたわけではないのに、後にキーワードを用いて語られることとなった。やりたいことをやり抜くこと、結論から入らずに行動を起こすことの強さが後に出るはずだ。

【その他】

講演会の最後に、生徒からたくさんの質問があり、渡邊氏には丁寧にお答えいただきました。さらに、講演会の後も1時間以上、生徒との懇談にも応じていただきました。参加した生徒にとっては、モチベーションをおおいにかき立てられる時間になりました。